

科目区分：共通基礎科目

授業科目名	教 養 特 別 講 義					学期	曜 日	校 時
英 語 名	Special lecture for freshman					前期	金曜日	校時
担 当 教官名	若 木 太 一 関 根 一 郎 新 庄 文 明	単 位 数	2 単 位	必修 選択	必 修			
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>学長、副学長及び名誉教授による特別講演により、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、「長崎」、「平和」及び「福祉・ボランティア」の講義により、学生生活の場である長崎を理解し、平和について学び、幸福、福祉とは何かを考え、ボランティア精神を養うことにより、学生諸君が探究心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
テキストは用いない。適宜プリント資料を配付する。								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法				教 官 研 究 室			
M 1 3 T 2 0 A	レポート及び出席状況を考慮して行う。							
授 業 計 画								
授業計画 第 1 回 4 月 11 日 特別講演 学長 第 2 回 4 月 18 日 長崎 若木太一（環境） 第 3 回 4 月 25 日 長崎 若木太一（環境） 第 4 回 5 月 2 日 長崎 若木太一（環境） 第 5 回 5 月 9 日 特別講演 水田善次郎（名誉教授） 第 6 回 5 月 16 日 特別講演 田北徹（名誉教授） 第 7 回 5 月 23 日 福祉・ボランティア 新庄文明（歯学） 第 8 回 5 月 30 日 福祉・ボランティア 新庄文明（歯学） 第 9 回 6 月 6 日 福祉・ボランティア 新庄文明（歯学） 第 10 回 6 月 13 日 特別講演 竹本泰一郎（名誉教授） 第 11 回 6 月 20 日 特別講演 佐藤俊英（名誉教授） 第 12 回 6 月 27 日 平和 関根一郎（医学） 第 13 回 7 月 4 日 平和 関根一郎（医学） 第 14 回 7 月 11 日 平和 関根一郎（医学） 第 15 回 7 月 18 日 特別講演 副学長								
授業内容 1．長崎 長崎の印刷文化史（1）キリシタン版 長崎の印刷文化史（2）出島版 長崎の印刷文化史（3）本木昌三の活字印刷 2．平和 放射線の人体への影響 長崎原爆の医学的被害 核を取り巻く戦争と平和								
（次頁へ）								

3. 福祉・ボランティア

新入生が大学での勉学を通して、社会に生起する種々の福祉・社会問題に対して知識をもち、かつ判断する力と、またそれらの問題を解決するためにボランティアとして社会に参加することができるように、その手がかりを学生が得ることが、この授業のねらいである。

授業のガイダンスとして、福祉社会とは共生社会であること、これに向けて民間の活動が不可欠であること、それを支えているのはボランティアであることを明らかにする。

成熟社会においては、あらゆる疾病や障害、加齢など、多様な問題を持つ人々と「ともに生きる」社会をめざして、共生できることが求められている。いろいろな人々と共生できる人とは、福祉や社会的な問題をかかえる人々、つまり他者への「共感」をもつことができる人である。共生社会をつくる構成員として、何が必要とされるのか、以下のような課題をもとに、ともに考えたい。

- (1) エイズとともに生きる：若者の間に感染拡大しているエイズをとりあげ、エイズ患者に対する差別や偏見、患者の実情を知り、患者への共感を学ぶ。
- (2) 障害者問題の今日的視点：社会不安が大きくなりつつある今、誰もがいつ障害者になるかもしれない。障害者予備軍として、健常者が障害者との付き合い方、マナーを学ぶ。
- (3) 災害援助とボランティア：「ボランティア元年」といわれた1995年の阪神大震災におけるボランティア活動の経験に学び、日常的な社会活動の重要性を学ぶ。
- (4) 高齢社会の現在と未来：高齢化が進む中で、高齢者の介護を、いつか必ず経験する自らの問題として学ぶ。

毎回の講義終了時に、課題に関するレポートの作成を指示する。